



## 小さなクルマ、 大きな未来。

スズキ株式会社  
代表取締役副社長

本田 治

### はじめに

車は、人の移動に世界中でなくてはならない道具です。しかし、単に移動の道具だけだったら、ここまで人々に愛され、また造る人々もこれほどに一生懸命にはならないのではないのでしょうか。車には、いつも乗った時の楽しさ、うれしさ、そしてわくわく感もなければならぬと考えています。

スズキは移動が経済的にできる意味で、まず、コンパクトな車に、最大限の低燃費化技術、軽量化技術を注いでいます。また、小さくても室内は広く不便がない、小さなエンジンでもきびきび走ることを大切にしています。そしてもうひとつ、お客様にお求め易い価格で造ることが重要です。

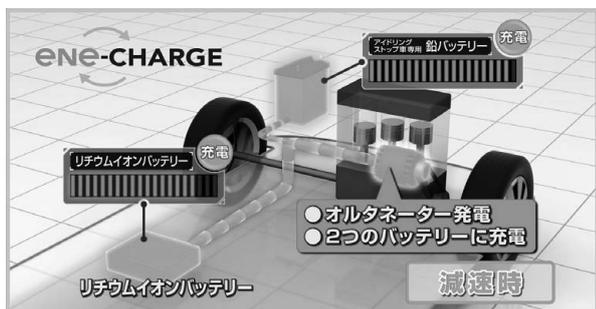
これらを具体化した商品として、このたびスズキは『新型ワゴンR』を発表し、発売いたしました。

以下にご紹介致します。

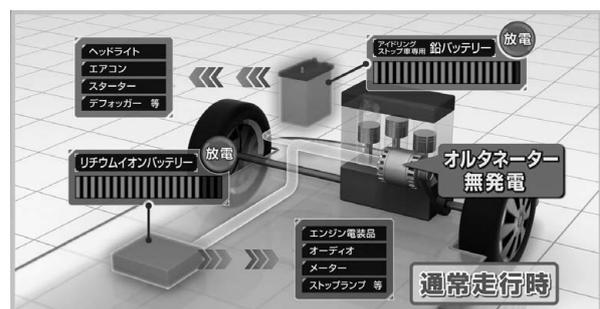


### エネチャージ

軽自動車初となるスズキ独自の減速エネルギー回生機構「エネチャージ」。エネチャージは既存のアイドリングストップ車専用の鉛バッテリーに加え、リチウムイオンバッテリーと高効率・高出力のオルタネーターを併用した減速エネルギー回生機構で、減速時の運動エネルギーを電気に変えて充電するシステムです。蓄えた電気を走行に必要な電装品に供給することで、発電によるエンジンの負担を軽減し燃料消費を抑制しています。自動車の電装品の作動域である12-14V付近をバッテリー電圧とする特性のリチウムイオンバッテリーを採用することで電圧調整を不要とし、助手席下に収めた軽量・コンパクトなシステムとしています。



減速時イメージ図



走行時イメージ図

# IDLING STOP

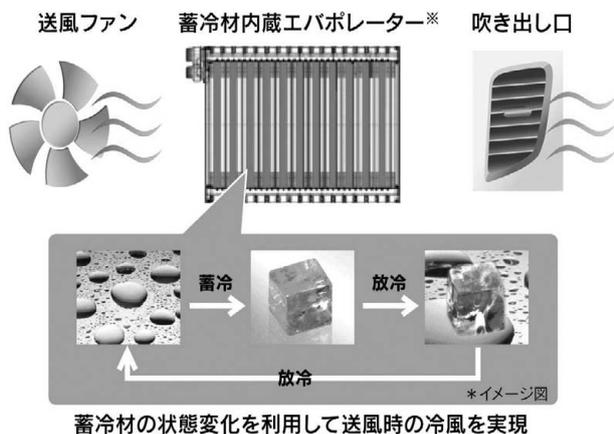
## 新アイドリングストップシステム

従来のアイドリングストップシステムに対し、エンジン停止速度の見直しや適切なタイミングでのエンジン再始動など、さらに制御を進化させました。新システムでは、軽自動車ですべてで時速13km以下でエンジンを停止させ、アイドリングストップの時間を延ばすことで燃料カット領域をさらに拡大し、燃料消費を抑えました。

# eco-COOL

## エコクール

「エコクール」も軽自動車初となる技術で、アイドリングストップ時の車内温度上昇を抑え、車内を快適に保つシステムです。エアコン空調ユニットの中に蓄冷材を採用し、送風だけになってしまうアイドリングストップ中の車内に蓄冷材を通して冷風を送る機構です。この冷風により室温の上昇を抑え快適性を保ちながら、従来よりもアイドリングストップ時間を延ばすことで燃料消費を抑制しています。



## 軽量化

高い衝突安全性能を確保しながらも車両全体にわたり徹底した軽量化を行いました。ボディは高張力鋼板を全体の約41%(重量比)に使用し、約15kgの大幅な軽量化を達成しています。前後ドアのアウトターパネルにも高張力鋼板を採用するなど、ドア全体では約6kgの軽量化を行い、内装部品でも材料・工法を変更し約10kgの軽量化を実現、車両全体で従来モ



■ 超高張力鋼板 ■ 高張力鋼板  
高張力鋼板使用範囲

デルに比べ70kg<sup>\*</sup>もの軽量化を達成いたしました。  
※先代ワゴンR FXリミテッド比

## 新型ワゴンR

9月6日に発表した『新型ワゴンR』は、これらスズキ独自の低燃費化技術と徹底した軽量化を実施、さらにエンジン・CVTなどの高効率化を図り、回転抵抗・転がり抵抗・空気抵抗などの走行抵抗の低減にも注力することで、28.8km/L<sup>\*</sup>の低燃費を達成しました。また、このワゴンRは全グレードに新技術を搭載し、ターボモデルや4WDモデルにおいても「平成27年度燃費基準+20%」を達成し、エコカー減税100%減税となっています。

※NA 2WD車 燃料消費率JC08モード走行(国土交通省審査値)。



新型ワゴンR

## さいごに

スズキは、お客様に毎日使っていただくクルマだからこそ、環境にやさしく、使いやすく、運転しやすく、そして経済的なクルマづくりに努めております。今後も低燃費化技術を積極的に採用し、環境に配慮した小さなクルマを提供してまいります。